鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文だより

第37号
平成17年2月25日発行

最新の年代測定方法について学ぶ

－技術研修講座を実施－

1月27，28日の2日間，市町村の埋蔵文化財担当職員を対象として技術研修講座を実施しました。

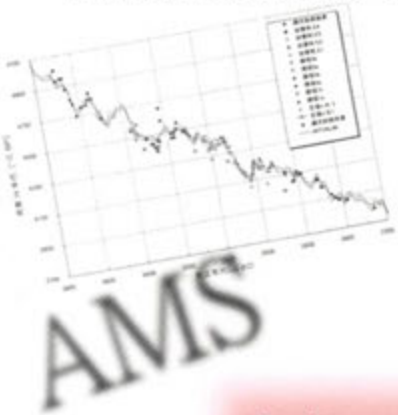
講座の1日目は「埋蔵文化財調査における自然科学分析の活用」をテーマに，講義や実習が行われました。特に国立歴史民俗博物館の今村峯雄先生の講義では，今話題になっている「年代測定」についての研修や実習を行いました。

2日目は「埋蔵文化財の活用とその課題」をテーマに，市町村の事例報告や討論などが行われました。討論会では普及，活用の具体的課題や市町村合併による組織再編等について活発な意見交換が交わされ，新たな課題に対して各担当者が真摯に取り組んでいることが感じられました。

今年も，当センターの各種研修講座では，ホットな話題から定番の実習まで取り組んでいきます。

土器に付着した炭化物を採取する参加者（中央:今村峯雄先生）

真剣な表情で講義や実習に取り組む市町村の埋文担当職員



鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は，
土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前9時～午後5時まで，
入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

埋蔵文化財センターホームページ　http://www.jomon-no-mori.jp

目　次

・最新の年代測定方法について学ぶ　…1
・すすむ大隅への道　…2,3
・遺跡現地説明会を3遺跡で実施　…4
・シリーズ「センターのしごと」　…5
・シリーズ「むかしむかしの衣食住」…5
・2004年度版発掘調査・報告書作成遺跡マップ
　ただ今開催中の特別企画展　…6

すすむ　大隅への道

－東九州自動車道建設に伴う発掘調査・報告書作成のあゆみ－

東九州自動車道建設に伴う発掘調査は平成８年から始まり，現在道路は末吉財部インターチェンジまでつながっています。今年度で末吉財部インターチェンジまでの区間の報告書作成がすべて完了し，現在次の区間の発掘調査が始まっています。そこで，これまで調査が行われた東九州自動車道建設に伴う発掘調査と報告書作成の成果を振り返ってみたいと思います。

城ケ尾遺跡 Jogao

福山町北部にあり，三方を山地に囲まれた台地上に立地しています。ここでは，縄文時代早期の集石遺構，石器，土器が環状に分布していました。空白の中央部，廃棄のパターン，場の利用などさまざまな問題を提起した重要な遺跡です。また，壺形の埋設土器は，県指定文化財となりました。

前原和田遺跡 Maehara Wada

姶良丹沢火山灰直上（約二・四万年前）の礫群

福山町牧之原地域の標高約380mの小規模な台地上に立地しています。ここでは，旧石器時代の層から，たくさんの礫群が発見されました。ミルクストーンと呼ばれる小礫群からは，加熱した礫を動物の皮などを敷いた穴に投げ入れ，スープなどを温める行為が推測されました。旧石器時代の人びとの生活を知る上で貴重な遺跡です。

永磯遺跡 Nagaiso

永磯遺跡で検出された縄文時代の落し穴

前原和田遺跡と同じく牧之原地域にあります。ここでは，縄文時代のほぼ全時期を通して40基の落し穴状遺構が見つかりました。逆茂木と呼ばれる杭状の小さな穴が見られることから通常の土坑とは区別されています。東九州自動車道関連の遺跡では，落し穴状遺構が見つかった遺跡が多いのですが（桐木耳取遺跡など），その中でも群を抜く多さです。動物たちの通り道で，たいへんよい狩猟場だったのでしょう。

平成8年から始まった東九州自動車道関係の発掘調査・整理作業には，非常に多くの方々がかかわっています。今年度は臨時職員もあわせて約60人のスタッフで報告書作成業務を行ってきました。平成15年度からは埋蔵文化財センター近くにプレハブを設置し，パソコンを活用した方法で報告書作成に取り組んできました。

踊場遺跡で見つかった中世の畠跡

踊場遺跡

Odoriba

財部町の南部にあり，横市川，今別府川，またその支流によって挟まれた台地に立地しています。踊場遺跡では，掘立柱建物跡の中から墨で「仟」，「仲」などと書かれた土器が出土しました。住居とは異なる柱の並びや出土した遺物などから，祭祀的な場所であった可能性が考えられます。また，1471年に桜島から噴出した文明ボラとよばれる軽石に覆われた中世の畠跡が見つかりました。

城ヶ尾遺跡西側にかかる国分川原橋。その長さは1,146mにもなり，高速道路では関門橋（1,068m）よりも長い，九州一の橋です。

墨で「舎」と書かれた土器

高篠遺跡で検出された軽石と焼土

九養岡遺跡

Kuyouoka

踊場，高篠遺跡と同じく財部町の南部にあります。どんな方法で石器を作っていたのか調べるために，旧石器時代の層から出土した遺物を接合する作業を行いました。物を割るのは簡単ですが，くっつけるのは大変です。地道な努力の結果，最初は小さかったものが大きくくっついていきました。なかには，製作途中で失敗してあきらめたのがわかるものもありました。旧石器時代の石器製作の工程を考える上で重要な遺跡です。

九養岡遺跡出土の三稜尖頭器と接合資料

高篠遺跡

Takasino

高篠遺跡では主に平安時代の遺物や遺構が多数検出されました。多数の土師器や墨書土器に加え，掘立柱建物跡や軽石の集まった遺構が見つかりました。この遺構は掘立柱建物の中にあり，焼土や鍛造剥片，鉄滓と呼ばれる鍛冶に関する遺物も見つかっています。

耳取ヴィーナス

シラス直上（約2.4万年前）で出土した表面に線刻の施された礫です。ちょうど大人の手のひらにすっぽりと収まる程度の大きさです。

桐木耳取遺跡

KirikiMimitori

末吉財部インターを作るために調査を行った末吉町，財部町にまたがる大規模な遺跡です。報告書は今年の３月に刊行される予定です。旧石器時代から中世にわたる複合遺跡で，鹿児島県でも最大規模の非常に重要な遺跡です。さまざまなタイプの土器の完形品が数多く出土していることや瀬戸内・北部九州などからの搬入品が見られることから，当時から人びとが集まる場所であった可能性があります。近くには通山という地名も残っており，昔も交通の要衝地だったのかもしれません。旧石器時代の線刻礫（耳取ヴィーナス，約2.4万年前）はこの時期の資料としては非常に貴重なものです。

国道10号耳取橋橋柱に作られたレリーフ

耳取橋から見た東九州自動車道。

桐木耳取遺跡出土土器（縄文時代早期）

ここで紹介した遺物の一部は現在，縄文の森展示館企画展にて展示中です！（5/29まで）

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

遺跡現地説明会を３遺跡で実施！

埋蔵文化財センターでは，地域が育む「かごしまの教育」県民週間にあたって，１１月１３日に金峰町の上水流遺跡，１１月２０日に鹿屋市の根木原遺跡，１１月２７日に川辺町の堂園遺跡で現地説明会を実施しました。３遺跡合わせて約６００名の見学者が訪れました。新たに発見された遺構や遺物をとおして，はるか昔の人びとの生活の一端にふれることができたことでしょう。

古墳時代の住居の説明を熱心に聞く見学者

上水流遺跡（金峰町）

上水流遺跡では，縄文時代中期（約4,500年前）の集石，古墳時代（約1,500年前）の竪穴住居跡，中世～近世（約800年～200年前）のかまど跡・大型土坑・溝状遺構など，現在検出されている各時代の遺構の説明を行いました。また，万之瀬川流域の遺跡群から出土した注目すべき遺物について展示を行いました。

根木原遺跡（鹿屋市）

根木原遺跡では，古墳時代（約1,700年～1,300年前）の竪穴住居跡や中世（約800年～400年前）の配石遺構・竪穴遺構・掘立柱建物跡など，現在検出されている遺構の説明を行いました。また，今までの発掘調査で出土した遺物を時代ごとに展示しました。復元した竪穴住居のまわりでは子供たちを中心に火起こしや勾玉作り，アンギン編みなどの古代体験に挑戦しました。

「こんなにたくさんの遺物が出土しました」

堂園遺跡（川辺町）

堂園遺跡では，旧石器時代（約14,000年前）から古墳時代（約1,700年前）の人びとが生活で使っていた石器や土器，古代（約1,100年前）の道跡，南薩縦貫道の完成予想図などの説明を行いました。

当日は，古代体験学習もあり，子供たちを中心に発掘作業，勾玉作り，火起こしなどに挑戦しました。また，サツマイモの石蒸し料理の試食で古代生活を堪能しました。

火をつけるためにはまっすぐにリズムよく動かそう！

「土器が完全に復元できた時は感動します」と話す藏元真奈美さん。

シリーズ センターのしごと

第３回 ～「接合・復元」編～

みなさん，お元気ですか？今回は，整理作業員の藏元真奈美さんに土器の接合と復元の作業について感想を書いていただきました。

この作業，結構難しそうだね。

接合は，ジグソーパズルを作るようにとても根気のいる作業です。時間をかけてもなかなか見つけられないときは，ため息が出ます。接合できる部分が見つかったら，接着剤で接合し，足りない部分を石膏で補い，色を塗ります。このように本来の姿に近づけて形を作る作業を「復元」と言います。

復元は実測図をもとに行っていますが，遺物が全体の半分以上もなかったり，変形していたりすると難しいです。でも，苦労して復元した後は，これを作った昔の人びとも完成した喜びや達成感があったのかも，と考えてみたりします。

土器や石器に触れると古代の人びとの生活ぶりが伺えます。祖先の「生命」を感じながら，これからも作業に励みたいと思います。

復元された土器（三角山Ⅰ遺跡，縄文時代草創期）と復元に使われる道具

むかしむかしの シリーズ 衣食住

第三回 ～「住」編～

シリーズ「衣食住」も３回目となりました。今回は「住」についてのあれこれをたどります。

「住居」といえば，基本的にはわたしたちが住んでいる家を指します。ここでは住居のことを住まいと呼ぶことにします。

住まいは生活に欠くことのできないものですが，発掘調査で発見される建物跡には，竪穴住居跡や掘立柱建物跡などがあります。

日本列島に人々が長期にわたって同じ場所に住む（定住生活）ようになったのは縄文時代になってからだとされています。国分市上野原遺跡では縄文時代早期前葉（９５００年前ごろ）の竪穴住居跡が発見され，数時期にわたる暮らしの跡がうかがえます。

弥生時代から古墳時代にかけては平地式の掘立柱建物も住まいとして使われるようになりましたが，ほとんどは竪穴住居が使われました。また，このころ描かれた絵画や埴輪などから高床建物も倉庫などに使われるようになったと考えられています。高床建物は床下の風通しが良く，ネズミなどの害を防ぐのに有効で，湿気の多い地域に適した住まいです。

古代では貴族など限られた人々は高床建物に暮らしていましたが，庶民は土間を利用することも多かったようです。

現在の日本家屋のように履き物を脱いで床の上に住んでいるのもアジアの一部の人々だけで，世界的にみるとむしろ珍しいようです。これは，床を高くしたことによって暮らしが変化したのかもしれませんね。

古墳時代の竪穴住居跡（上水流遺跡）

2004年度版 発掘調査・報告書作成遺跡マップ

● 発掘調査した遺跡
▲ 報告書作成・整理作業を行った遺跡
（赤文字は市町村支援事業）

組合せ式箱式石棺（立神遺跡）

発掘風景（桐木遺跡）

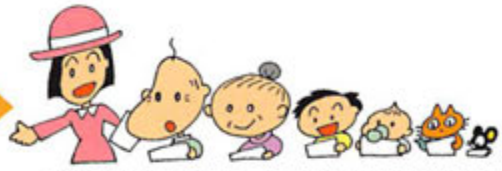
住居から出土した土器（上水流遺跡）

変形撚糸文土器（桐木遺跡）

巨大な集石（上水流遺跡）

ただ今開催中の特別企画展

Uenohara Jomon no Mori , Kagoshima



平成17年2月5日～5月29日の期間，上野原縄文の森展示館では第11回企画展「新発見！かごしまの遺跡2005」を開催しています。今回の展示は，今年度発掘調査及び報告書作成を行った遺跡の遺物や遺構を多数展示しています。今回初めて公開される遺物も多いので，この機会にぜひ上野原縄文の森に御来園ください。

埋文だより　第37号

発行日　平成17年2月25日
編集・発行
鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4461
鹿児島県国分市上之段1175番地1
TEL 0995-48-5811
FAX 0995-48-5820
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp